

営農情報

大豆栽培情報（8月号）

第99号 平成24年8月8日発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

梅雨期間の多雨の影響で、大豆の播種は遅れ、7月25日頃を中心に行われました。播種が浅いところでは、乾燥による出芽不良が見受けられます。今後は、以下のような点に留意して栽培管理を行いましょう。

1 中耕・培土

- (1) 中耕・培土は土の通気性を良くし、根の発達を促すことで、根粒菌数を増やし、地上部の発育と倒伏防止に有効です。また、雑草防除にも役立ちます。
- (2) 本葉2～5葉期（播種後15～25日頃）に**1～2回、株元に土が十分寄るよう**に**ていねい**に行います。

2 ハスモンヨトウ防除

白変葉が見え始める、幼虫が若～中齢（幼虫の体長が1～2cm）の頃が防除適期です。時期を逸すると効果が劣ることがあるので、適期防除を心がけましよう。今後の防除情報に注意して下さい。

時期	薬剤名	希釈倍数	使用回数	備考
8月	プレバソンフロアブル5	4000倍	2回以内	速効性、残効長い
下旬頃	トップジンM水和剤	1500倍	4回以内	紫斑病対策

3 除草剤

中耕・培土による雑草対策が基本ですが、イネ科雑草が多い場合、以下の除草剤が使えます。

薬剤名	10aあたり使用量	備考
ポルトフロアブル	水1000lに薬剤200～300mlを混ぜる	イネ科雑草のみに効果あり。広葉雑草には効果が無いので注意する。

4 水管理

梅雨明け以降、晴天で高温の日が多くなっています。今後の天候次第では、土壌が過乾燥となり、大豆の根の伸長抑制と根粒菌の活性低下を招きます。その際は、暗渠を施工しているほ場では、暗渠の栓を締めて下さい。

また、開花期に土が乾燥する場合は、花が落ち、実付きが悪くなります。一溝ずつ水を入れるなど、かん水のやり方を工夫しましょう。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！